

建築・環境学部ディプロマ・ポリシーとカリキュラムマップの対応について

建築・環境学部は、キリスト教に基づく建学の精神と校訓「人になれ 奉仕せよ」のもと、次に掲げるすべての能力を備え、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

◆知識・理解

1. 自己理解と他者理解につながる幅広い教養（※）を身につけている。（幅広い教養）
（※）総合大学の利点を活かした全学共通教養教育と学部独自の教養教育が含まれる。
2. 建築の意匠、歴史、構造、材料、環境・設備に関する基礎的知識を理解している。建築物を設計する知識に基づいて、図面を描くことができる。
(専門分野に関する知識・理解)
3. 建築・環境学の観点から、「神奈川」の歴史・文化・風土等の特性を理解している。
(地域に関する知識・理解)

◆技能

4. 建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを自ら実行する技術を持つ。
(問題発見・解決力)
5. 国際社会において協働できるコミュニケーション力を有している。(国際協動力)

◆思考・判断・表現

6. 他者がもつ社会的・文化的背景を理解したうえで、自己を客体化して思考することができる。
(多文化での共生)
7. 倫理観と公平・公正の精神を持った事象の判断力を有するとともに、建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを理解している。
(倫理観、公平・公正な判断)
8. 他の意見に耳を傾けるとともに、自らの意見を適切な表現手段を用いて発信する能力を身につけるとともに、建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを理解している。
(傾聴と発信)

◆関心・意欲・態度

9. 生涯にわたり、進んで知識・教養・技能を高めようとする意欲を持って、社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。
(生涯学び続ける意欲)
10. 社会・地域・組織の一員としての役割を果たそうとする主体性を身につけ、社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。
(社会参加への主体性)
11. 建築物の設計プロセスにおいて、豊富な知識と広い視野のもとに、様々な背景をもった他者を尊重して協働できる。
(チームワーク、他者との協働)
12. 問題に対して誠実に向き合うとする実践的態度を身につけている。社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。
(建学の精神の実践、奉仕動機)

※対応するディプロマ・ポリシーは主なものです。

専門基幹・基礎科目

2. 専門分野に関する知識・理解
7. 倫理観、公平・公正な判断

コース基幹科目、コース発展科目、 コース関連科目

2. 専門分野に関する知識・理解
 4. 問題発見・解決力
 7. 倫理観、公平・公正な判断
- 実習、演習科目**
8. 傾聴と発信
 11. チームワーク、他者との協働

共通科目

1. 幅広い教養
3. 地域に関する知識・理解
6. 多文化での共生
7. 倫理観、公平・公正な判断

社会人基礎力育成科目

9. 生涯学び続ける意欲
10. 社会参加への主体性

外国語（英語）科目

5. 国際協動力

卒業研究関連科目

4. 問題発見・解決力
 6. 多文化での共生
 7. 倫理観、公平・公正な判断
 8. 傾聴と発信
11. チームワーク、他者との協働
 12. 建学の精神の実践、奉仕動機

			目的等
専門基礎科目			専門基幹科目 理学、工学、工業の基礎的な事項を学び、建築・環境学の各分野がどのように位置づけされるかを学ぶ。
コモン			ワークショップ ものを図面やデッサンで表現する技術、模型製作のスキル、模型を用いた建築空間の表現方法などを演習を通して学ぶ。また、仮設的な建築に関する対象物を協働し実際に建設することで、企画から設計、施工、解体、資材確保、再利用までを学ぶ。以上のような体験を通じて、建築・環境学に必要な表現能力や企画力、協調性などを身につける。
専門基礎科目			CAD 建築設計を実施する際に必須となっているCADを利用できるスキルを、平面から立体、レンダリング表現まで演習を通して身につける。
コモン			数学・法規・測量 (数学系科目) 建築・環境学を学ぶ上で必要となる、数学、物理の基礎的な要素を学び、論理的思考を身につける。 (法規、測量学) 建築に関する法規の適用方法を理解すること、また土地や建物を測量する技術を学び、実務的な展開能力を獲得する。
専門基礎科目			建築設計製図 建築設計における設計図の役割を理解し、立体物を平面に描くことを学び、建築物の各種図面、表現方法を理解する。その上で、学んできた建築の知識を統合して、住宅やオフィスビルなどの設計演習を実施し、基礎的な建築設計技術を習得する。
コース・コア			建築エンジニアリング コース 建築構造や材料・施工に関わる設計・施工、開発、維持管理といったエンジニアリング技術を専門とする分野に携わる人材を育成する。
コース・コア			建築デザイン コース 建築に対する幅広い基礎的な素養を身につけると共に、構造、材料、環境・設備等の分野も総合的に考え、建築の計画・デザイン(設計)を実践できる感性と能力を有する人材を育成する。
コース・コア			まちづくりデザイン コース 都市計画・地域デザインやまちづくり分野、また都市や建物の再生計画、リフォーム、コンバージョンなどを専門とする分野に携わる人材を育成する。
コース・コア			すまいデザイン コース すまいに関する知識をもとに、戸建住宅や集合住宅などの様々な用途の住宅の計画と設計やインテリアと家具のデザイン、さらには住居後のメンテナンスとリフォームに関する分野まで幅広く携わる人材を育成する。
コース・コア			環境共生デザイン コース 建物の環境・設備に関わる設計・施工、開発、維持管理といったエンジニアリング技術を専門とする分野、さらにそれらの技術と建築設計とを総合的に捉えてデザインする分野に携わる人材を育成する。
デザイン分野			建築計画・デザイン 建築デザインの基礎を学び、建築設計に必要とされる素養を身につけるための領域である。初年次では、人間工学や環境心理学、デザイン理論等の観点から、建築デザインの基礎知識を習得する。次に建築計画学の諸知見を演習を通して学び、空間構成の手法を総合的に身につける。さらに既存建物を有効活用する保存・再生計画に必要な知識や能力を習得する。
デザイン分野			都市 ランドスケープ 都市デザインの内、景観や環境に関する内容を学ぶ領域である。歴史的・風土的侧面を踏まえて、風景計画や造園、ランドスケープをデザインする際に必要とされる諸知識及び方法論と応用力を身につける。
デザイン分野			都市・地域 都市デザインの内、経済的、歴史的、物的、法的側面を習得する領域である。過去・現在・未来が連続する都市の空間構造、都市基盤の法的整備手法、都市計画の実務を理解し、都市空間の計画に必要な総合的理窟力を身につける。
デザイン分野			住宅 住まいのデザインに関する基礎知識を身につける領域である。個人と家族と社会の関係、家族における世代や性、少子高齢社会等の問題を理解し、住宅を文化的、地域的、風土的な視点から読み解く力を養う。建築をめぐる経済・法律・環境面の実学的知識を学び、それらを住空間のデザインに活かす応用力を身につける。
デザイン分野			家具・インテリア・テキスタイル グラフィック・照明等 商業施設、オフィス、住宅等のインテリアデザインに関する内容を学ぶ領域である。スケールにとらわれない環境デザインのありかたを学ぶ。また、家具のデザインと製作を通して、ものづくりの基礎である、原寸で考える習慣とデザインのバランスを身につける。
デザイン分野			歴史 建築の歴史について、通史的に学ぶ領域である。日本と西洋における、古代から近代までの時代様式の変遷を理解して、建築デザインを学ぶ上での基礎的教養を身につける。また、近代における建築理論の変遷のアウトラインを理解する。
専門応用科目			構造力学 力学を学び、梁やフレーム、トラス構造物の応力や変形の計算方法を知る。構造設計の理論背景を理解することで、設計コードを適切に捉える素養を身につけると共に、建築物の持つ力の流れと形の関係を理解する素地を作る。
専門応用科目			各種構造・計画 代表的な構造の特徴を理解した上で、設計方法や接合部などの詳細までを学び、実験から実験動を觀察し、理論との整合性を確認する。また、建築物の構造形式の分類と適用事例を知り、適切な構造形式を選択できる能力を養う。
専門応用科目			耐震・振動・応用 我が国で必須となる耐震設計の体系を大まかな考え方からスタートし、建物振動の数学的取り扱い、コンピュータを用いた解析手法、地盤の影響などを学ぶことを通して理解する。現在の構造・耐震設計方法を読み解き、新たな設計試みへの展開能力を身につける。
専門応用科目			構造設計 鉄骨構造、RC構造を対象に実務設計時の行程を、演習を通して理解し、構造設計業務を適切に履行できる能力を身につける。
専門応用科目			材料 材料についてそれぞれの種類、製造法、特徴、使用方法の注意点などを理解し、建築技術者として仕事をしていく上での基礎力を身につける。
専門応用科目			構法 建築構法では、建物の構造原理や特徴、基本部材構成など、建築物を設計し施工するうえでの基礎となる知識を身につける。構法Ⅰでは、主に構造の基礎知識習得を目指しており、木造、鉄筋コンクリート造、鉄骨造、その他構造を扱う。構法Ⅱでは、床、壁、屋根、天井、階段などどのように構成されているかを理解する。
専門応用科目			施工 設計図書どおりの建物を安全かつ効率的に実現していく方法を施工学により理解する。地盤、基礎、躯体、仕上げ別に基本的な施工順序、施工方法、施工上の注意点などを学ぶほか、最先端の施工技術についても理解する。施工演習は以上の基礎知識をもとに、現場管理者に不可欠な施工図作成や積算の方法を実習により身につける。
専門応用科目			維持管理 建築病理学では建物に生ずる劣化の診断方法や補修方法を体系的に学ぶ。また、ファシリティ・マネジメントでは、建築物の用途変更、最適再配分の基本的な考え方について学び、公共施設を中心とした建物の管理方法を身に着ける。以上を通して、建築物を長く使うことの重要性について理解する。
環境・設備分野			環境・設備要素 建築・都市の生活空間を計画する上で必要となる熱・空気・光・音・水等の環境要素を安全かつ快適な状態に保つために必要となる建築・都市環境工学の基礎を学ぶ。それと共に、機械的な環境調整技術となる空気調和設備、給排水衛生設備、建築電気設備の概要とそれらの設計・計画を行うための基礎知識を身につける。
環境・設備分野			環境計画・デザイン 建築・環境学における環境工学と設備分野に関する基礎的事項を理解した上で、省エネルギー、省資源で地球環境に配慮した建築・設備の設計・計画を行ったために必要となる計画手法を学ぶ。また、建物のライフサイクル、維持保全、コストの低減を考慮した建築環境・設備の改修や更新について、基礎能力を養う。
環境・設備分野			システム演習・実験 建築環境工学、給排水衛生設備、空気調和設備、電気設備を主体とした建築設備の実験を体験し、実践的な能力を習得する。同時に環境・設備設計演習を行い、計算法や図面化するための手法を習得する。また、コンピュータを用いた建築・環境シミュレーション手法を学び、解析手法を併用した環境・設備設計手法の基礎力を養う。
環境・設備分野			省エネ・リサイクル 建築・都市にわたる既存のガス・電気などのエネルギー技術に加え、太陽光、風力、地熱などの未利用エネルギー技術の安全性や実用性等について学ぶ。また、廃棄物等の資源のリサイクル手法とその有効性や課題点について学習し、環境負荷を低減した持続可能な循環型社会の構築のために必要な総合的な能力を養う。
専門応用科目			卒業研究 建築・環境学の総合的かつ全体的な学術体系を基盤とし、デザインとエンジニアリングの統合、環境との共生、既存の社会資源の維持・活用・再生、そして人々の持続する生活の質の向上など、現在の共生社会が必要とする諸課題を追求し、それに応える課題解決能力を身につける。

	1・2セメスター				3・4セメスター				5・6セメスター				7・8セメスター			
	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP
専門基幹科目	理工学概論	2														
ワークショップ	ドローイング ワークショップ	2.4.12	モデリング ワークショップ	2.4.12	ビルディング ・ワークショップ	2.3.4 11.12	ランドスケープ デザイン・ ワークショップ	2.3.4 8.10								
CAD	CAD演習Ⅰ	2.4.12	CAD演習Ⅰ	2.4.12	CAD演習Ⅱ	2.4.12	CAD演習Ⅱ	2.4.12								
数学・法規・測量	基礎数学Ⅰ	2.1.2	基礎数学Ⅱ	2.1.2	基礎数学Ⅲ	2.1.2			建築法規B	2.3.7 12	建築法規A	2.3.7 12				
建築設計製図	建築設計製図Ⅰ	2.4.7 8.12	建築設計製図Ⅱ	2.4.7 8.12	建築設計製図Ⅲ	2.4.7 8.12	建築設計製図Ⅳ	2.4.7 8.12								
建築 エンジニアリング コース					サステナブル 建築・環境学実習	2.4. 10.11			建築構法設計製図	2.4.7	建築構造設計製図	2.4.7				
建築デザイン コース									建築 デザインスタジオ1	1.2.3 8	建築 デザインスタジオ2	1.2.3 8	総合 デザインスタジオ			
まちづくりデザイン コース									まちづくり デザインスタジオ1	1.2.3 4.7.8	まちづくり デザインスタジオ2	2.3.4 7.8				
すまいデザイン コース									すまい デザインスタジオ1	1.2.4 6.7.8	すまい デザインスタジオ2	1.2.4 6.7.8				
環境共生デザイン コース									バシブ デザインスタジオ	2.4.7 8	建築環境 デザインスタジオ	2.4.7 8				
建築計画・デザイン	建築計画・ デザイン基礎	1.2			建築計画Ⅰ	1.2.4 6.7	建築計画Ⅱ	1.2.7	建築再生計画論	1.2.4 7						
都市	ランドスケープ						ランドスケープ論	2								
都市・地域							まちづくり論	6.9.11 12	不動産学基礎 都市形成史	2.7 2.3.10	アーバンデザイン	2.4.7 10				
住宅							家族論	1.2.6 9	すまいデザイン論	2.4.9	住居史	1.2.4 6.9				
家具・インテリア・テキスタイル グラフィック・照明等									環境デザイン概論A	2.4.6 9	環境デザイン概論B	2.4.6 9				
歴史					日本建築史	2.6	西洋建築史	2.6	近代建築史	2.6						
構造力学			フレームの力学基礎	2.7	フレームの力学Ⅰ	2.7	フレームの力学Ⅱ	2.7	フレームの力学Ⅲ	2.7						
各種構造・計画					静定フレーム演習	2.4.7	不静定フレーム演習	2.4.7								
耐震・振動・応用																
構造設計									建築構造計画	2.3.7	建築構造実験	2.4.7 8.11				
材料			建築生産・材料基礎	2.7	建築材料学Ⅰ	2.7	建築材料学Ⅱ	2.4.7								
構法					建築構法Ⅰ	2.7	建築構法Ⅱ	2.4.7								
施工									建築生産	2.7	建築施工学	2.4.7	施工演習	2.4.7		
維持管理											建築病理学	2.7				
環境・設備要素			建築環境・設備基礎	1.2.12	建築熱環境	2.1.2	建築水環境	2.1.2	建築電気設備論	2.1.2	建築・都市環境	2.1.2				
環境計画・デザイン					建築光・音環境	2.1.2	建築空気環境	2.1.2	建築設備計画	2.4.12	環境設備リニューアル	2.1.2				
システム演習・実験									パシブデザイン	2.1.2						
省エネ・リサイクル									建築環境・設備実験	2.4.11 12	建築設備・設計演習	2.4.12				
卒業研究									建築環境シミュレーション	2.4.11 12						
											建築環境エネルギー	2.1.2				
													ゼミナール/ 卒業研究	1.2.4 7.8.10 11.12	卒業研究/ ゼミナール	1.2.4 7.8.10 11.12

必修科目

コース必修科目

備考: ディプロマ・ボリシー (DP) については以下に対応する番号とその内容を記す。

知識・理解	1. 自己理解と他者理解につながる幅広い教養（※）を身につけている。（幅広い教養）（※）総合大学の利点を活かした全学共通教養教育と学部独自の教養教育が含まれる。 2. 建築の意匠、歴史、構造、材料、環境・設備に関する基礎的知識を理解している。建築物を設計する知識に基づいて、図面を描くことができる。（専門分野に関する知識・理解） 3. 建築・環境学の観点から、「神奈川」の歴史・文化・風土等の特性を理解している。（地域に関する知識・理解）
技能	4. 建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを自ら実行する技術を持つ。（問題発見・解決力） 5. 國際社会において協働できるコミュニケーション力を有している。（国際協働力）
思考・判断・表現	6. 他者がもつ社会的・文化的背景を理解したうえで、自己を客体化して思考することができる。（多文化での共生） 7. 倫理観と公平・公正の精神を持った事象の判断力を有するとともに、建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを理解している。（倫理観、公平・公正な判断） 8. 他者の意見に耳を傾けるとともに、自らの意見を適切な表現手段を用いて発信する能力を身につけるとともに、建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを理解している。（傾聴と発信）
関心・意欲・態度	9. 生涯にわたり、進んで知識・教養・技能を高めようとする意欲を持って、社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。（生涯学び続ける意欲） 10. 社会・地域・組織の一員としての役割を果たそうとする主体性を身につけ、社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。（社会参加への主体性） 11. 建築物の設計プロセスにおいて、豊富な知識と広い視野のもとに、様々な背景をもった他者を尊重して協働できる。（チームワーク、他者との協働） 12. 問題に対して誠実に向き合おうとする実践的態度を身につけている。社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。（建学の精神の実践、奉仕動機）

			目的等
専門基礎科目			専門基幹科目 理学、工学、工業の基礎的な事項を学び、建築・環境学の各分野がどのように位置づけされるかを学ぶ。
コモン			ワークショップ ものを図面やデッサンで表現する技術、模型製作のスキル、模型を用いた建築空間の表現方法などを演習を通して学ぶ。また、仮設的な建築に関する対象物を協働し実際に建設することで、企画から設計、施工、解体、資材確保、再利用までを学ぶ。以上のような体験を通じて、建築・環境学に必要な表現能力や企画力、協調性などを身につける。
専門基礎科目			CAD 建築設計を実施する際に必須となっているCADを利用できるスキルを、平面から立体、レンダリング表現まで演習を通して身につける。
コモン			数学・法規・測量 (数学系科目) 建築・環境学を学ぶ上で必要となる、数学、物理の基礎的な要素を学び、論理的思考を身につける。 (法規、測量学) 建築に関する法規の適用方法を理解すること、また土地や建物を測量する技術を学び、実務的な展開能力を獲得する。
専門基礎科目			建築設計製図 建築設計における設計図の役割を理解し、立体物を平面に描くことを学び、建築物の各種図面、表現方法を理解する。その上で、学んできた建築の知識を統合して、住宅やオフィスビルなどの設計演習を実施し、基礎的な建築設計技術を習得する。
コース・コア			建築構造サブコース 建築構造や材料・施工に関わる設計・施工、開発、維持管理といったエンジニアリング技術を専門とする分野に携わる人材を育成する。 建築材料・施工サブコース
コース・コア			建築デザインコース 建築に対する幅広い基礎的な素養を身につけると共に、構造、材料、環境・設備等の分野も総合的に考え、建築の計画・デザイン(設計)を実践できる感性と能力を有する人材を育成する。
コース・コア			まちづくりデザインコース 都市計画・地域デザインやまちづくり分野、また都市や建物の再生計画、リフォーム、コンバージョンなどを専門とする分野に携わる人材を育成する。
コース・コア			すまいデザインコース すまいに関する知識をもとに、戸建住宅や集合住宅などの様々な用途の住宅の計画と設計やインテリアと家具のデザイン、さらには住居後のメンテナンスとリフォームに関する分野まで幅広く携わる人材を育成する。
コース・コア			環境共生デザインコース 建物の環境・設備に関わる設計・施工、開発、維持管理といったエンジニアリング技術を専門とする分野、さらにそれらの技術と建築設計とを総合的に捉えてデザインする分野に携わる人材を育成する。
デザイン分野			建築計画・デザイン 建築デザインの基礎を学び、建築設計に必要とされる素養を身につけるための領域である。初年次では、人間工学や環境心理学、デザイン理論等の観点から、建築デザインの基礎知識を習得する。次に建築計画学の諸知見を演習を通して学び、空間構成の手法を総合的に身につける。さらに既存建物を有効活用する保存・再生計画に必要な知識や能力を習得する。
デザイン分野			都市 ランドスケープ 都市デザインの内、景観や環境に関する内容を学ぶ領域である。歴史的・風土的侧面を踏まえて、風景計画や造園、ランドスケープをデザインする際に必要とされる諸知識及び方法論と応用力を身につける。 都市・地域 都市デザインの内、経済的、歴史的、物的、法的側面を習得する領域である。過去・現在・未来が連続する都市の空間構造、都市基盤の法的整備手法、都市計画の実務を理解し、都市空間の計画に必要な総合的理窟力を身につける。
デザイン分野			住宅 住まいのデザインに関する基礎知識を身につける領域である。個人と家族と社会の関係、家族における世代や性、少子高齢社会等の問題を理解し、住宅を文化的、地域的、風土的な視点から読み解く力を養う。建築をめぐる経済・法律・環境面の実学的知識を学び、それらを住空間のデザインに活かす応用力を身につける。
デザイン分野			家具・インテリア・テキスタイル グラフィック・照明等 商業施設、オフィス、住宅等のインテリアデザインに関する内容を学ぶ領域である。スケールにとらわれない環境デザインのありかたを学ぶ。また、家具のデザインと製作を通して、ものづくりの基礎である、原寸で考える習慣とデザインのバランスを身につける。
デザイン分野			歴史 建築の歴史について、通史的に学ぶ領域である。日本と西洋における、古代から近代までの時代様式の変遷を理解して、建築デザインを学ぶ上での基礎的教養を身につける。また、近代における建築理論の変遷のアウトラインを理解する。
専門応用科目			構造分野 構造力学 力学を学び、梁やフレーム、トラス構造物の応力や変形の計算方法を知る。構造設計の理論背景を理解することで、設計コードを適切に捉える素養を身につけると共に、建築物の持つ力の流れと形の関係を理解する素地を作る。
専門応用科目			構造分野 各種構造・計画 代表的な構造の特徴を理解した上で、設計方法や接合部などの詳細までを学び、実験から実験動を觀察し、理論との整合性を確認する。また、建築物の構造形式の分類と適用事例を知り、適切な構造形式を選択できる能力を養う。
専門応用科目			構造分野 耐震・振動・応用 我が国で必須となる耐震設計の体系を大まかな考え方からスタートし、建物振動の数学的取り扱い、コンピュータを用いた解析手法、地盤の影響などを学ぶことを通して理解する。現在の構造・耐震設計方法を読み解き、新たな設計試みへの展開能力を身につける。
専門応用科目			構造分野 構造設計 鉄骨構造、RC構造を対象に実務設計時の行程を、演習を通して理解し、構造設計業務を適切に履行できる能力を身につける。
専門応用科目			材料・施工分野 材料 建築生産・材料基礎では、建築生産分野への導入教育として建築材料および施工をなぜ学ぶ必要あるのかなど、今後の学習の動機づけを行う。建築材料関係の3科目では構造材料と仕上げ材料についてそれぞれの種類、製造法、特徴、使用方法の注意点などを理解し、建築技術者として仕事をしていく上での基礎力を身につける。
専門応用科目			材料・施工分野 構法 建築構法では、建物の構造原理や特徴、基本部材構成など、建築物を設計し施工するうえでの基礎となる知識を身につける。構法Ⅰでは、主に構造の基礎知識習得を目指しており、木造、鉄筋コンクリート造、鉄骨造、その他構造を扱う。構法Ⅱでは、床、壁、屋根、天井、階段などがどのように構成されているかを理解する。
専門応用科目			材料・施工分野 施工 設計図書どおりの建物を安全かつ効率的に実現していく方法を施工学により理解する。地盤、基礎、躯体、仕上げ別に基本的な施工順序、施工方法、施工上の注意点などを学ぶほか、最先端の施工技術についても理解する。施工演習は以上の基礎知識をもとに、現場管理者に不可欠な施工図作成や積算の方法を実習により身につける。
専門応用科目			材料・施工分野 維持管理 建築病理学では建物に生ずる劣化の診断方法や補修方法を体系的に学ぶ。また、ファシリティ・マネジメントでは、建築物の用途変更、最適再配分の基本的な考え方について学び、公共施設を中心とした建物の管理方法を身に着ける。以上を通して、建築物を長く使うことの重要性について理解する。
専門応用科目			環境・設備分野 環境・設備要素 建築・都市の生活空間を計画する上で必要となる熱・空気・光・音・水等の環境要素を安全かつ快適な状態に保つために必要となる建築・都市環境工学の基礎を学ぶ。それと共に、機械的な環境調整技術となる空調設備、給排水衛生設備、建築電気設備の概要とそれらの設計・計画を行うための基礎知識を身につける。
専門応用科目			環境・設備分野 環境計画・デザイン 建築・環境学における環境工学と設備分野に関する基礎的事項を理解した上で、省エネルギー、省資源で地球環境に配慮した建築・設備の設計・計画を行ったために必要となる計画手法を学ぶ。また、建物のライフサイクル、維持保全、コストの低減を考慮した建築環境・設備の改修や更新について、基礎能力を養う。
専門応用科目			環境・設備分野 システム演習・実験 建築環境工学、給排水衛生設備、空気調和設備、電気設備を主体とした建築設備の実験を体験し、実践的な能力を習得する。同時に環境・設備設計演習を行い、計算法や図面化するための手法を習得する。また、コンピュータを用いた建築・環境シミュレーション手法を学び、解析手法を併用した環境・設備設計手法の基礎力を養う。
専門応用科目			環境・設備分野 省エネ・リサイクル 建築・都市にわたる既存のガス・電気などのエネルギー技術に加え、太陽光、風力、地熱などの未利用エネルギー技術の安全性や実用性等について学ぶ。また、廃棄物等の資源のリサイクル手法とその有効性や課題点について学習し、環境負荷を低減した持続可能な循環型社会の構築のために必要な総合的な能力を養う。
			卒業研究 建築・環境学の総合的かつ全体的な学術体系を基盤とし、デザインとエンジニアリングの統合、環境との共生、既存の社会資源の維持・活用・再生、そして人々の持続する生活の質の向上など、現在の共生社会が必要とする諸課題を追求し、それに応える課題解決能力を身につける。

		1・2セメスター				3・4セメスター				5・6セメスター				7・8セメスター				
		科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	
専門基幹科目		理工学概論	2															
ワークショップ		ドローイング ワークショップ	2.4.12	モデリング ワークショップ	2.4.12	ビルディング ・ワークショップ	2.3.4 11.12	ランドスケープ デザイン・ ワークショップ	2.3.4 8.10									
CAD		CAD演習Ⅰ	2.4.12	CAD演習Ⅰ	2.4.12	CAD演習Ⅱ	2.4.12	CAD演習Ⅱ	2.4.12									
数学・法規・測量		基礎数学Ⅰ	2.1.2	基礎数学Ⅱ	2.1.2	基礎数学Ⅲ	2.1.2			建築法規B	2.3.7 12	建築法規A	2.3.7 12					
												測量学及び実習	2.11 12					
建築設計製図		建築設計製図Ⅰ	2.4.7 8.12	建築設計製図Ⅱ	2.4.7 8.12	建築設計製図Ⅲ	2.4.7 8.12	建築設計製図Ⅳ	2.4.7 8.12									
建築 エンジニアリング コース	建築構造 サブコース																	
	建築 材料・施工 サブコース					サステイナブル 建築・環境学実習	2.4. 10.11			建築構法設計製図	2.4.7	建築構造設計製図	2.4.7					
建築デザイン コース										建築 デザインスタジオ1	1.2.3 4.6.7 8	建築 デザインスタジオ2	1.2.3 4.6.7 8					
まちづくりデザイン コース										まちづくり デザインスタジオ1	1.2.3 4.7.8	まちづくり デザインスタジオ2	2.3.4 7.8	総合 デザインスタジオ	1.2.3 4.7.8			
すまいデザイン コース										すまい デザインスタジオ1	1.2.4 6.7.8	すまい デザインスタジオ2	1.2.4 6.7.8					
環境共生デザイン コース										バシフ デザインスタジオ	2.4.7 8	建築環境 デザインスタジオ	2.4.7 8					
建築計画・デザイン		建築計画・ デザイン基礎	1.2			建築計画Ⅰ	1.2.4 6.7	建築計画Ⅱ	1.2.7	建築再生計画論	1.2.4 7							
都市	ランドスケープ							ランドスケープ論	2									
	都市・地域							まちづくり論	6.9.11 12	不動産学基礎 都市形成史	2.7 2.3.10	アーバンデザイン	2.4.7 10					
住宅								家族論	1.2.6 9	すまいデザイン論	2.4.9	住居史	1.2.4 6.9					
家具・インテリア・テキスタイル グラフィック・照明等										環境デザイン概論A	2.4.6 9	環境デザイン概論B	2.4.6 9					
歴史						日本建築史	2.6	西洋建築史	2.6	近代建築史	2.6							
構造力学				フレームの力学基礎	2.7	フレームの力学Ⅰ	2.7	フレームの力学Ⅱ	2.7	フレームの力学Ⅲ	2.7							
						静定フレーム演習	2.4.7	不静定フレーム演習	2.4.7									
各種構造・計画										鉄骨構造	2.4.7	建築構造実験	2.4.7 8.11					
										鉄筋コンクリート構造	2.4.7							
耐震・振動・応用								建築耐震工学概論	3.7	建築振動学	2.4.7	構造解析学	2.4.7	基礎・地盤力学	2.7			
構造設計												構造設計I	2.4.7	構造設計II	2.4.7			
材料				建築生産・材料基礎	2.7	建築材料学Ⅰ	2.7	建築材料学Ⅱ	2.4.7									
								建築材料実験	2.4.7 8.11									
構法						建築構法Ⅰ	2.7	建築構法Ⅱ	2.4.7									
施工										建築生産	2.7	建築施工学	2.4.7	施工演習	2.4.7			
維持管理											建築病理学	2.7						
											ファシリティ・ マネジメント	2.3.4 7.8.10 11.12						
環境・設備要素				建築環境・設備基礎	1.2.12	建築熱環境	2.1.2	建築水環境	2.1.2	建築電気設備論	2.1.2	建築・都市環境	2.1.2					
						建築光・音環境	2.1.2	建築空気環境	2.1.2									
環境計画・デザイン										建築設備計画	2.4.12	環境設備リニューアル	2.1.2					
システム演習・実験										パッシブデザイン	2.1.2							
省エネ・リサイクル										建築環境・設備実験	2.4.11 12	建築設備・設計演習	2.4.12					
卒業研究										建築環境シミュレーション	2.4.11 12							

必修科目

コース必修科目

備考: ディプロマ・ボリシー (DP) については以下に対応する番号とその内容を記す。

知識・理解	1. 自己理解と他者理解につながる幅広い教養（※）を身につけている。（幅広い教養）（※）総合大学の利点を活かした全学共通教養教育と学部独自の教養教育が含まれる。
	2. 建築の意匠、歴史、構造、材料、環境・設備に関する基礎的知識を理解している。建築物を設計する知識に基づいて、図面を描くことができる。（専門分野に関する知識・理解）
	3. 建築・環境学の観点から、「神奈川」の歴史・文化・風土等の特性を理解している。（地域に関する知識・理解）
技能	4. 建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを自ら実行する技術を持つ。（問題発見・解決力）
	5. 國際社会において協働できるコミュニケーション力を有している。（国際協働力）
思考・判断・表現	6. 他者がもつ社会的・文化的背景を理解したうえで、自己を客体化して思考することができる。（多文化での共生）
	7. 倫理觀と公平・公正の精神を持った事象の判断力を有するとともに、建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを理解している。（倫理觀、公平・公正な判断）
	8. 他の意見に耳を傾けるとともに、自らの意見を適切な表現手段を用いて発信する能力を身につけるとともに、建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを理解している。（傾聴と発信）
関心・意欲・態度	9. 生涯にわたり、進んで知識・教養・技能を高めようとする意欲を持って、社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。（生涯学び続ける意欲）
	10. 社会・地域・組織の一員としての役割を果たそうとする主体性を身につけ、社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。（社会参加への主体性）
	11. 建築物の設計プロセスにおいて、豊富な知識と広い視野のもとに、様々な背景をもった他者を尊重して協働できる。（チームワーク、他者との協働）
	12. 問題に対して誠実に向き合おうとする実践的態度を身につけている。社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。（建学の精神の実践、奉仕動機）

建築・環境学部 共通科目 カリキュラムマップ

2023年度以降入学生用

○印: 必修 △印: 選択必修 ※印: 登録必須 無印: 選択

分野	1・2セメスター	3・4セメスター	5・6セメスター	7・8セメスター	DP対応番号
教養科目	○キリスト教学 文学Ⅰ 哲学Ⅰ 歴史学Ⅰ 論理学Ⅰ 文化人類学Ⅰ [日本事情（人文）]	○キリスト教学（技術者としての倫理） 文学Ⅱ 哲学Ⅱ 歴史学Ⅱ 論理学Ⅱ 文化人類学Ⅱ 自校史			1, 6, 7, 12 1, (6), 7 1, 7 1, 6 1, 5, 6 1,3,6,7,9,10,12
	経済学Ⅰ 社会学 法学 憲法 政治学Ⅰ 心理学Ⅰ [日本事情（社会）]	経済学Ⅱ 社会福祉論 (法学) (憲法) 政治学Ⅱ 心理学Ⅱ			1, 7 1, 5, 6
	教養セミナ	(教養セミナ) Japanese Culture and Society I Japanese Culture and Society II (ソーシャルサービス)			1, 6, 7, (12) 1, 5, 6
	ソーシャルサービス ※KGUキャリアデザイン入門Ⅰ ※KGUキャリアデザイン入門Ⅱ [日本事情（自然）] KGUデータサイエンス概論	KGUキャリアデザイン基礎Ⅰ	KGUキャリアデザイン基礎Ⅱ	KGUキャリアデザイン応用	4, 6, 10, 12 1, 7, 10, 11, 12 1, 5, 6 1,4,7,8,12
	△KGUかながわ学（行政） △KGUかながわ学（経済） △KGUかながわ学（スポーツ） △KGUかながわ学（自然） △KGUかながわ学（地域安全） △KGUかながわ学（コミュニティ）	△かながわ学（IT産業） △かながわ学（環境） △KGUかながわ学（政治） △KGUかながわ学（歴史・文化） △KGUかながわ学（健康） △KGUかながわ学（地域づくり）	地域創生特論（横浜） 地域創生特論（川崎） 地域創生特論（鎌倉） 地域創生特論（逗子） 地域創生特論（葉山） 地域創生特論（岩手） 地域創生特論（厚木）	地域創生特論（神奈川） 地域創生特論（相模原） 地域創生特論（横須賀） 地域創生特論（三浦） 地域創生特論（茅ヶ崎） 地域創生特論（小田原） 地域創生特論（福島） 地域創生特論（沖縄）	1, 3, 7
	保健体育科目	健康スポーツⅠ	健康スポーツⅡ	健康スポーツⅢ	健康スポーツⅣ
					健康スポーツⅤ 武道指導論Ⅰ
					健康スポーツⅥ 武道指導論Ⅱ
					1, 9, 11
外国語科目	○総合英語（リーディング） ○総合英語（オーラルコミュニケーション） (○総合英語（ライティング）) △英語講読（科学・基礎） △英語講読（科学） △資格英語（TOEIC基礎） △資格英語（TOEIC中級） △資格英語（技術英検） △英語講読（論文） △留学英語 △オーラルコミュニケーションⅠ	○総合英語（リスニング） (○総合英語（オーラルコミュニケーション）) ○総合英語（ライティング） (△英語講読（科学・基礎）) (△英語講読（科学）) △英語講読（文学） (△資格英語（TOEIC基礎）) (△資格英語（TOEIC中級）) (△資格英語（技術英検）) (△英語講読（論文）) △英語講読（時事英語） △アカデミックプレゼンテーションⅠ △アカデミックプレゼンテーションⅡ △オーラルコミュニケーションⅡ			1, 5, 6 1, 5, 6, 8
	△ドイツ語ⅠA（文法） (△ドイツ語ⅠB（文法）) △ドイツ語ⅡA（読解） (△ドイツ語ⅡB（読解）) △フランス語ⅠA △中国語ⅠA (△中国語ⅠB) △スペイン語ⅠA △ロシア語ⅠA 日本語ⅠA 日本語ⅡA 海外語学演習（英語） 海外語学演習（中国語） 海外語学演習（韓国語） 海外語学演習（フランス語） 海外語学演習（ドイツ語）	(△ドイツ語ⅠA（文法）) △ドイツ語ⅠB（文法） (△ドイツ語ⅡA（読解）) △ドイツ語ⅡB（読解） △フランス語ⅠB (△中国語ⅠA) △中国語ⅠB △スペイン語ⅠB △ロシア語ⅠB 日本語ⅠB 日本語ⅡB	ドイツ語ⅢA △フランス語ⅡA △中国語ⅡA (△中国語ⅡB) △スペイン語ⅡA △ロシア語ⅡA	ドイツ語ⅢB △フランス語ⅡB (△中国語ⅡA) △中国語ⅡB △スペイン語ⅡB △ロシア語ⅡB	1, 5, 6 1, 5, 6 1, 5, 6, 9, 10

各科目の配当セメスターについては授業科目配当表を参照すること。

備考: ディプロマ・ポリシー(DP)については以下に対応する番号とその内容を記す。

知識 ・理解	1. 自己理解と他人理解につながる幅広い教養（※）を身につけている。（幅広い教養）（※）総合大学の利点を活かした全学共通教養教育と学部独自の教養教育が含まれる。 2. 建築の意匠、歴史、構造、材料、環境・設備に関する基礎的知識を理解している。建築物を設計する知識に基づいて、図面を描くことができる。（専門分野に関する知識・理解） 3. 建築・環境学の観点から、「神奈川」の歴史・文化・風土等の特性を理解している。（地域に関する知識・理解）
技能	4. 建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを自ら実行する技術を持つ。（問題発見・解決力） 5. 國際社会において協働できるコミュニケーション力を有している。（國際協動力）
思考 ・判断 ・表現	6. 他者がもつ社会的・文化的背景を理解したうえで、自己を客体化して思考することができる。（多文化での共生） 7. 倫理観と公平・公正の精神を持った事象の判断力を有するとともに、建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを理解している。（倫理観、公平・公正な判断） 8. 他者の意見に耳を傾けるとともに、自らの意見を適切な表現手段を用いて発信する能力を身につけるとともに、建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを理解している。（傾聴と発信）
関心 ・意欲 ・態度	9. 生涯にわたり、進んで知識・教養・技能を高めようとする意欲を持って、社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。（生涯学び続ける意欲） 10. 社会・地域・組織の一員としての役割を果たそうとする主体性を身につけ、社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。（社会参加への主体性） 11. 建築物の設計プロセスにおいて、豊富な知識と広い視野のもとに、様々な背景をもった他者を尊重して協働できる。（チームワーク、他者との協働） 12. 問題に対して誠実に向き合おうとする実践的態度を身につけている。社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。（建学の精神の実践、奉仕動機）

建築・環境学部 共通科目 カリキュラムマップ

2017~2022年度入学生用

○印: 必修 △印: 選択必修 ※印: 登録必須 無印: 選択

分野	1・2セメスター	3・4セメスター	5・6セメスター	7・8セメスター	DP対応番号	
教養科目	○キリスト教学 文学Ⅰ 哲学Ⅰ 歴史学Ⅰ 論理学Ⅰ 文化人類学Ⅰ [日本事情(人文)] 自校史	○キリスト教学(技術者としての倫理) 文学Ⅱ 哲学Ⅱ 歴史学Ⅱ 論理学Ⅱ 文化人類学Ⅱ			1, 6, 7, 12 1, (6), 7 1, 7 1, 6 1, 5, 6 1,3,6,7,9,10,12	
	経済学Ⅰ 社会学 法学 憲法 政治学Ⅰ 心理学Ⅰ [日本事情(社会)]	経済学Ⅱ 社会福祉論 (法学) (憲法) 政治学Ⅱ 心理学Ⅱ			1, 7 1, 5, 6	
	教養セミナ	(教養セミナ) Japanese Culture and Society I Japanese Culture and Society II (ソーシャルサービス) KGUキャリアデザイン基礎1			1, 6, 7, (12) 1, 5, 6	
	ソーシャルサービス ※KGUキャリアデザイン入門1 ※KGUキャリアデザイン入門2 [日本事情(自然)] KGUデータサイエンス概論	KGUキャリアデザイン基礎2	KGUキャリアデザイン応用		4, 6, 10, 12 1, 7, 10, 11, 12 1, 5, 6 1,4,7,8,12	
	△KGUかながわ学(行政) △KGUかながわ学(経済) △KGUかながわ学(スポーツ) △KGUかながわ学(自然) △KGUかながわ学(地域安全) △KGUかながわ学(コミュニティ)	△かながわ学(IT産業) △かながわ学(環境) △KGUかながわ学(政治) △KGUかながわ学(歴史・文化) △KGUかながわ学(健康) △KGUかながわ学(地域づくり)	地域創生特論(横浜) 地域創生特論(川崎) 地域創生特論(鎌倉) 地域創生特論(逗子) 地域創生特論(葉山) 地域創生特論(岩手) 地域創生特論(厚木)	地域創生特論(神奈川) 地域創生特論(相模原) 地域創生特論(横須賀) 地域創生特論(三浦) 地域創生特論(茅ヶ崎) 地域創生特論(小田原) 地域創生特論(福島) 地域創生特論(沖縄)		1, 3, 7
	健康スポーツⅠ	健康スポーツⅡ	健康スポーツⅢ	健康スポーツⅣ	健康スポーツⅤ 武道指導論Ⅰ	健康スポーツVI 武道指導論Ⅱ
	○総合英語(リーディング) ○総合英語(オーラルコミュニケーション) (○総合英語(ライティング)) △英語講読(科学・基礎) △英語講読(科学) △資格英語(TOEIC基礎) △資格英語(TOEIC中級) △資格英語(技術英検) △英語講読(論文) △留学英語 △オーラルコミュニケーションI	○総合英語(リスニング) (○総合英語(オーラルコミュニケーション)) ○総合英語(ライティング) (△英語講読(科学・基礎)) (△英語講読(科学)) △英語講読(文学) (△資格英語(TOEIC基礎)) (△資格英語(TOEIC中級)) (△資格英語(技術英検)) △英語講読(時事英語) △アカデミックプレゼンテーションI △アカデミックプレゼンテーションII △オーラルコミュニケーションII		△アカデミックライティングI △アカデミックライティングII △資格英語(TOEIC上級)		1, 5, 6 1, 5, 6, 8
	△ドイツ語IA(文法) (△ドイツ語IB(文法)) △ドイツ語IIA(読解) (△ドイツ語IIB(読解)) △フランス語IA △中国語IA (△中国語IB) △スペイン語IA △ロシア語IA △日本語IA △日本語IIA 海外語学演習(英語) 海外語学演習(中国語) 海外語学演習(韓国語) 海外語学演習(フランス語) 海外語学演習(ドイツ語)	(△ドイツ語IA(文法)) △ドイツ語IB(文法) (△ドイツ語IIA(読解)) △ドイツ語IIB(読解) △フランス語IB (△中国語IA) △中国語IB △スペイン語IB △ロシア語IB △日本語IB △日本語IIB	ドイツ語III A △フランス語II A △中国語II A (△中国語II B) △スペイン語II A △ロシア語II A	ドイツ語III B △フランス語II B (△中国語II A) △中国語II B △スペイン語II B △ロシア語II B		1, 5, 6 1, 5, 6, 9, 10

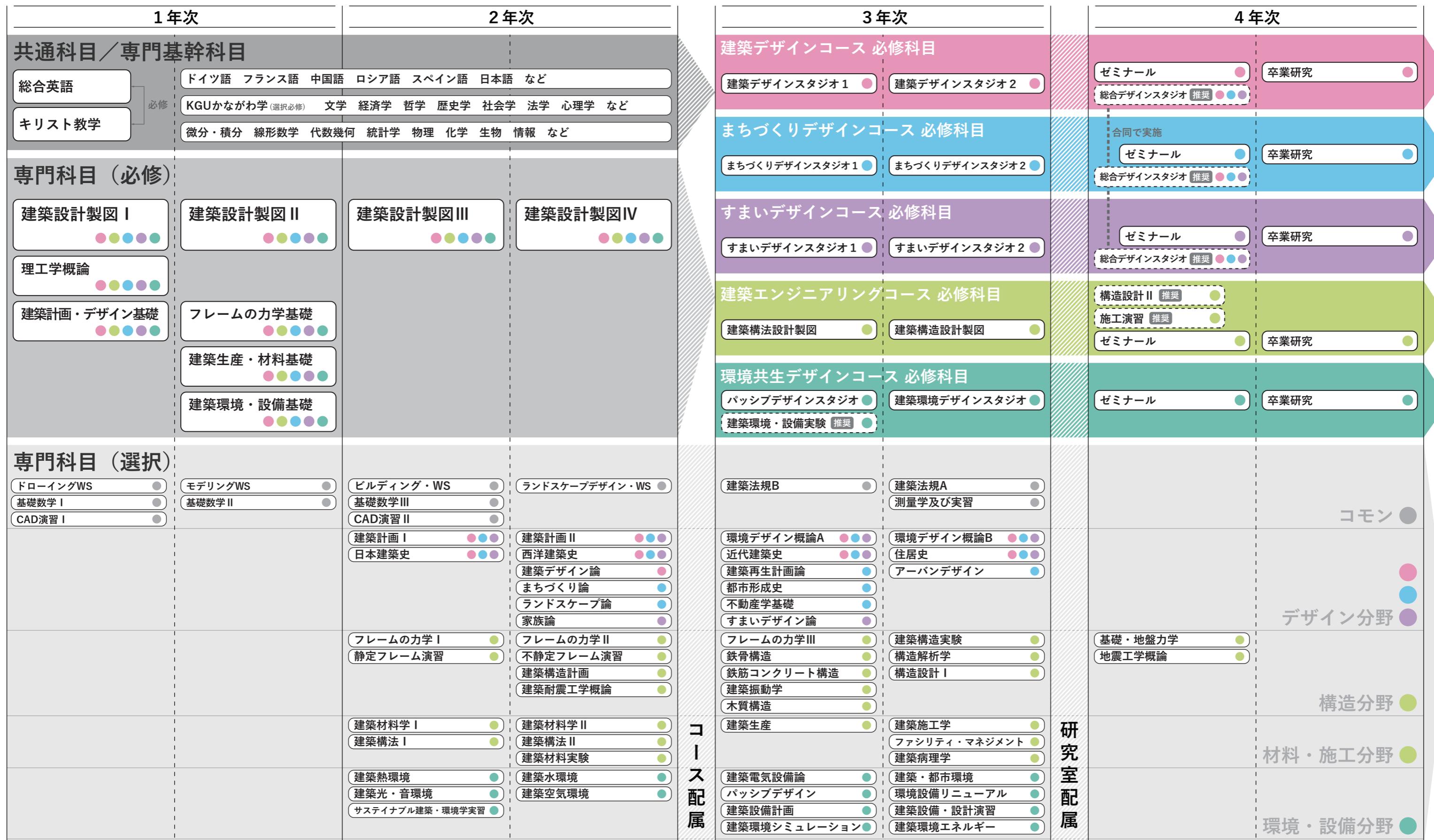
各科目的配当セメスターについては授業科目配当表を参照すること。

備考: ディプロマ・ポリシー(DP)については以下に対応する番号とその内容を記す。

知識・理解	1. 自己理解と他者理解につながる幅広い教養(※)を身につけている。(幅広い教養)(※)総合大学の利点を活かした全学共通教養教育と学部独自の教養教育が含まれる。 2. 建築の意匠、歴史、構造、材料、環境・設備に関する基礎的知識を理解している。建築物を設計する知識に基づいて、図面を描くことができる。(専門分野に関する知識・理解) 3. 建築・環境学の観点から、「神奈川」の歴史・文化・風土等の特性を理解している。(地域に関する知識・理解)
技能	4. 建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを自ら実行する技術を持つ。(問題発見・解決力) 5. 國際社会において協働できるコミュニケーション力を有している。(国際協動力)
思考・判断・表現	6. 他者がもつ社会的・文化的背景を理解したうえで、自己を客体化して思考することができる。(多文化での共生) 7. 倫理観と公平・公正の精神を持った事象の判断力を有するとともに、建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを理解している。(倫理観、公平・公正な判断) 8. 他者の意見に耳を傾けるとともに、自らの意見を適切な表現手段を用いて発信する能力を身につけるとともに、建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを理解している。(傾聴と発信)
関心・意欲・態度	9. 生涯にわたり、進んで知識・教養・技能を高めようとする意欲を持って、社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。(生涯学び続ける意欲) 10. 社会・地域・組織の一員としての役割を果たそうとする主体性を身につけ、社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。(社会参加への主体性) 11. 建築物の設計プロセスにおいて、豊富な知識と広い視野のもとに、様々な背景をもった他者を尊重して協働できる。(チームワーク、他者との協働) 12. 問題に対して誠実に向き合おうとする実践的態度を身につけている。社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。(建学の精神の実践、奉仕動機)

建築・環境学部 建築・環境学科 学びの流れ/カリキュラムマップ（2023年度入学生用）

2022年12月06日作成



CP：カリキュラム・ポリシー（概要）

建築・環境学は狭い意味での工学技術の一分野ではなく、ひとつの全体性を備えた総合的な学問領域であり、その多面性から本学部・学科は5つのコースを設けていますが、教育課程として1つの「学びの流れ」がコース共通に流れる特徴ある編成としています。

この流れは1・2年次の建築設計製図、3・4年次から分かれるコース毎のスタジオ(卒業研究を含む)により構成され、学部共通に1年次より用意された共通科目及び専門科目の個別の科目群を総合化する場として位置付けられています。ここでは学生第一と考え、学生一人ひとりの多様な資質や能力に肌理細やかに対応する少人数制指導により、設計を中心とした実践的な学修を行います。

DP：ディプロマ・ポリシー（概要）

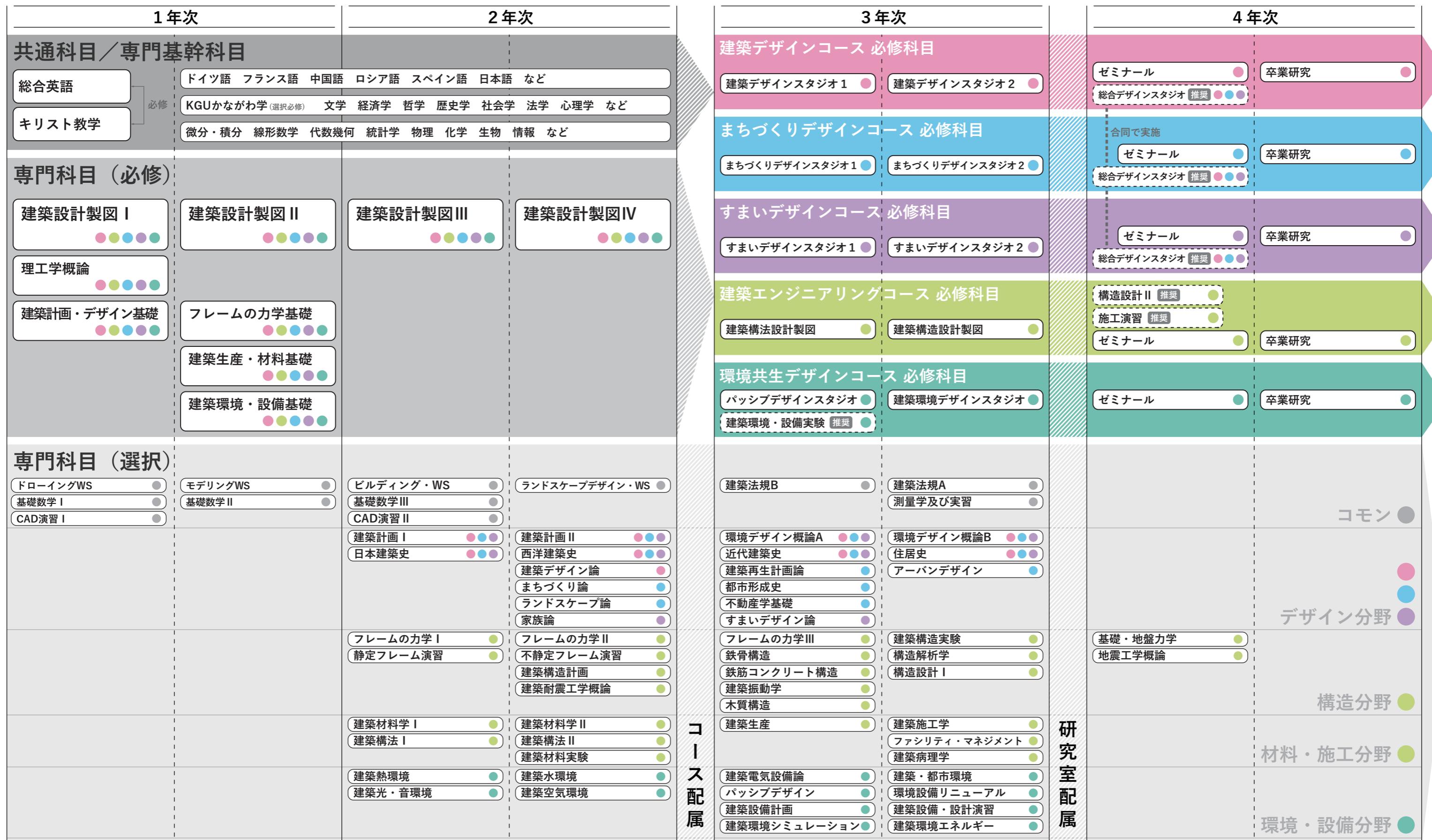
建築・環境学の総合的かつ全般的な学術体系を基盤とし、デザインとエンジニアリングの統合、環境との共生、既存の社会資源の維持・活用・再生、そして人々の持続する生活の質の向上など、現在の共生社会が必要とする諸課題を追究し、それに応えることができる人材を育成するために用意された諸科目の修得を求めます。

- 具体的には、
- ・建築の意匠、歴史、構造、材料、環境・設備に関する基礎的知識を理解している
 - ・建築物を設計する知識に基づいて、図面を描くことができる
 - ・建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを理解している
 - ・上記コース毎に設定されたDP(diploma policy)を修得している

推薦: 必修ではありませんが、所属コースの科目の履修を強く推奨します。

建築・環境学部 建築・環境学科 学びの流れ/カリキュラムマップ（2022年度入学生用）

2021年1月25日作成



CP：カリキュラム・ポリシー（概要）

建築・環境学は狭い意味での工学技術の一分野ではなく、ひとつの全体性を備えた総合的な学問領域であり、その多面性から本学部・学科は5つのコースを設けていますが、教育課程として1つの「学びの流れ」がコース共通に流れる特徴ある編成としています。

この流れは1・2年次の建築設計製図、3・4年次から分かれるコース毎のスタジオ(卒業研究を含む)により構成され、学部共通に1年次より用意された共通科目及び専門科目の個別の科目群を総合化する場として位置付けられています。ここでは学生第一と考え、学生一人ひとりの多様な資質や能力に肌理細やかに対応する少人数制指導により、設計を中心とした実践的な学修を行います。

DP：ディプロマ・ポリシー（概要）

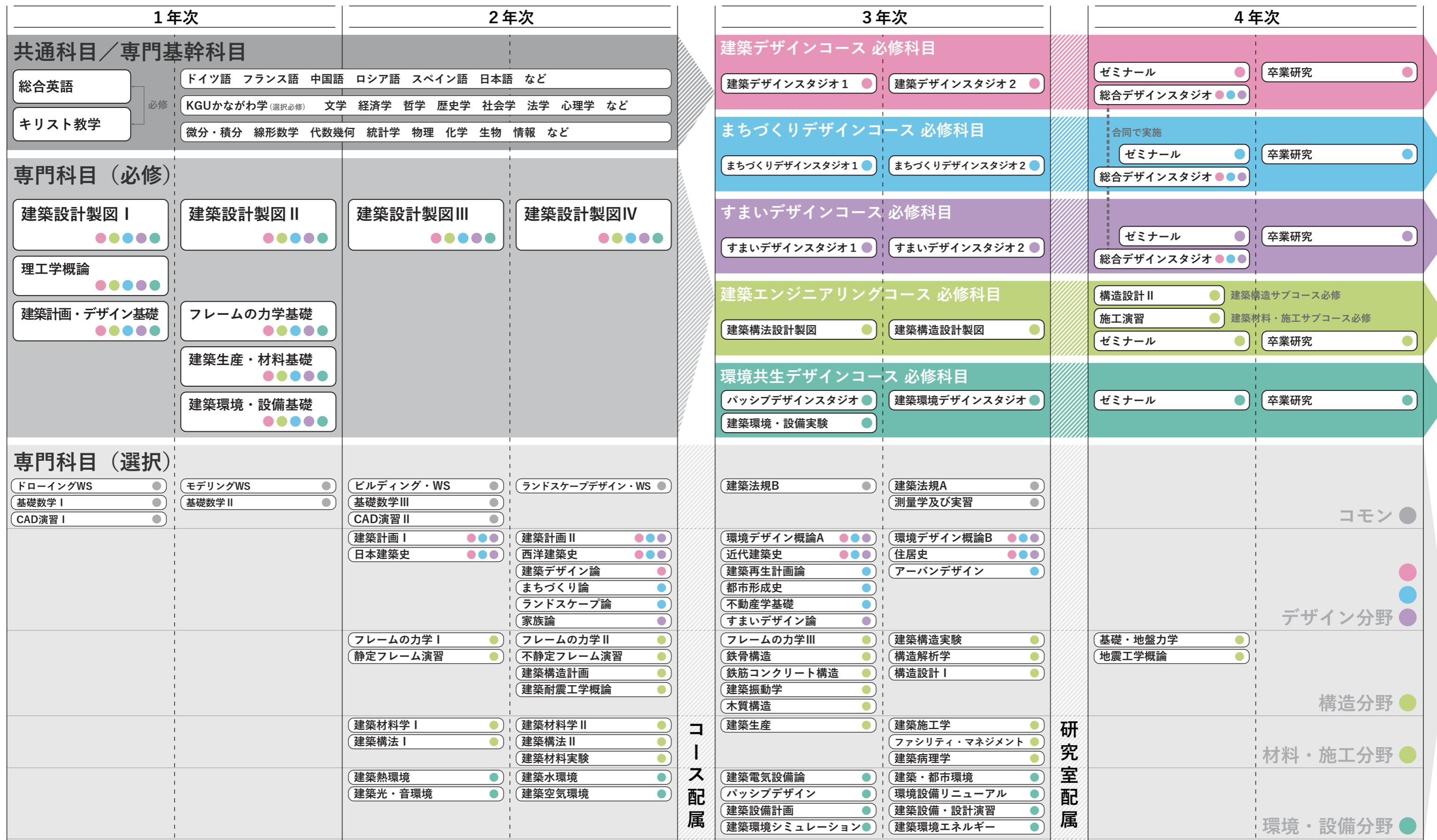
建築・環境学の総合的かつ全般的な学術体系を基盤とし、デザインとエンジニアリングの統合、環境との共生、既存の社会資源の維持・活用・再生、そして人々の持続する生活の質の向上など、現在の共生社会が必要とする諸課題を追究し、それに応えることができる人材を育成するために用意された諸科目の修得を求めます。

- 具体的には、
- ・建築の意匠、歴史、構造、材料、環境・設備に関する基礎的知識を理解している
 - ・建築物を設計する知識に基づいて、図面を描くことができる
 - ・建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを理解している
 - ・上記コース毎に設定されたDP(diploma policy)を修得している

推奨: 必修ではありませんが、所属コースの科目の履修を強く推奨します。

建築・環境学部 建築・環境学科 学びの流れ/カリキュラムマップ（2021年度入学生用）

2021年2月11日作成



CP：カリキュラム・ポリシー（概要）

建築・環境学は狭い意味での工学技術の一分野ではなく、ひとつの全体性を備えた総合的な学問領域であり、その多面性から本学部・学科は5つのコースを設けていますが、教育課程として1つの「学びの流れ」がコース共通に流れる特徴ある編成としています。

この流れは1・2年次の建築設計製図、3・4年次から分かれるコース毎のスタジオ(卒業研究を含む)により構成され、学部共通に1年次より用意された共通科目及び専門科目の個別の科目群を総合化する場として位置付けられています。ここでは学生第一と考え、学生一人ひとりの多様な資質や能力に肌理細やかに対応する少人数制指導により、設計を中心とした実践的な学修を行います。

DP：ディプロマ・ポリシー（概要）

建築・環境学の総合的かつ全体的な学術体系を基盤とし、デザインとエンジニアリングの統合、環境との共生、既存の社会資源の維持・活用・再生、そして人々の持続する生活の質の向上など、現在の共生社会が必要とする諸課題を追究し、それに応えることができる人材を育成するために用意された諸科目の修得を求めます。

- 具体的には、
- ・建築の意匠、歴史、構造、材料、環境・設備に関する基礎的知識を理解している
 - ・建築物を設計する知識に基づいて、図面を描くことができる
 - ・建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを理解している
 - ・上記コース毎に設定されたDP(diploma policy)を修得している

建築・環境学部ディプロマ・ポリシーとカリキュラムマップの対応について

建築・環境学部は、キリスト教に基づく建学の精神と校訓「人になれ 奉仕せよ」のもと、次に掲げるすべての能力を備え、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

◆知識・理解

1. 自己理解と他者理解につながる幅広い教養（※）を身につけている。（幅広い教養）
（※）総合大学の利点を活かした全学共通教養教育と学部独自の教養教育が含まれる。
2. 建築の意匠、歴史、構造、材料、環境・設備に関する基礎的知識を理解している。建築物を設計する知識に基づいて、図面を描くことができる。
(専門分野に関する知識・理解)
3. 建築・環境学の観点から、「神奈川」の歴史・文化・風土等の特性を理解している。
(地域に関する知識・理解)

◆技能

4. 建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを自ら実行する技術を持つ。
(問題発見・解決力)
5. 国際社会において協働できるコミュニケーション力を有している。(国際協動力)

◆思考・判断・表現

6. 他者がもつ社会的・文化的背景を理解したうえで、自己を客体化して思考することができる。
(多文化での共生)
7. 倫理観と公平・公正の精神を持った事象の判断力を有するとともに、建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを理解している。
(倫理観、公平・公正な判断)
8. 他の意見に耳を傾けるとともに、自らの意見を適切な表現手段を用いて発信する能力を身につけるとともに、建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを理解している。
(傾聴と発信)

◆関心・意欲・態度

9. 生涯にわたり、進んで知識・教養・技能を高めようとする意欲を持って、社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。
(生涯学び続ける意欲)
10. 社会・地域・組織の一員としての役割を果たそうとする主体性を身につけ、社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。
(社会参加への主体性)
11. 建築物の設計プロセスにおいて、豊富な知識と広い視野のもとに、様々な背景をもった他者を尊重して協働できる。(チームワーク、他者との協働)
12. 問題に対して誠実に向き合うとする実践的態度を身につけている。社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。
(建学の精神の実践、奉仕動機)

※対応するディプロマ・ポリシーは主なものです。

専門基幹・基礎科目

2. 専門分野に関する知識・理解
7. 倫理観、公平・公正な判断

コース基幹科目、コース発展科目、 コース関連科目

2. 専門分野に関する知識・理解
 4. 問題発見・解決力
 7. 倫理観、公平・公正な判断
- 実習、演習科目
8. 傾聴と発信
 11. チームワーク、他者との協働

共通科目

1. 幅広い教養
3. 地域に関する知識・理解
6. 多文化での共生
7. 倫理観、公平・公正な判断

社会人基礎力育成科目

9. 生涯学び続ける意欲
10. 社会参加への主体性

外国語（英語）科目

5. 国際協動力

卒業研究関連科目

4. 問題発見・解決力
 6. 多文化での共生
 7. 倫理観、公平・公正な判断
 8. 傾聴と発信
11. チームワーク、他者との協働
 12. 建学の精神の実践、奉仕動機

建築・環境学部 建築・環境学科履修系統図

2013~2020年度入学生用

			目的等
専門基礎科目			専門基幹科目 理学、工学、工業の基礎的な事項を学び、建築・環境学の各分野がどのように位置づけされるかを学ぶ。
コモン			ワークショップ ものを図面やデッサンで表現する技術、模型製作のスキル、模型を用いた建築空間の表現方法などを演習を通して学ぶ。また、仮設的な建築に関する対象物を協働し実際に建設することで、企画から設計、施工、解体、資材確保、再利用までを学ぶ。以上のような体験を通じて、建築・環境学に必要な表現能力や企画力、協調性などを身につける。
専門基礎科目			CAD 建築設計を実施する際に必須となっているCADを利用できるスキルを、平面から立体、レンダリング表現まで演習を通して身につける。
コモン			数学・法規・測量 (数学系科目) 建築・環境学を学ぶ上で必要となる、数学、物理の基礎的な要素を学び、論理的思考を身につける。 (法規、測量学) 建築に関する法規の適用方法を理解すること、また土地や建物を測量する技術を学び、実務的な展開能力を獲得する。
専門基礎科目			建築設計製図 建築設計における設計図の役割を理解し、立体物を平面に描くことを学び、建築物の各種図面、表現方法を理解する。その上で、学んできた建築の知識を統合して、住宅やオフィスビルなどの設計演習を実施し、基礎的な建築設計技術を習得する。
コース・コア			建築構造サブコース 建築構造や材料・施工に関わる設計・施工、開発、維持管理といったエンジニアリング技術を専門とする分野に携わる人材を育成する。 建築材料・施工サブコース
コース・コア			建築デザインコース 建築に対する幅広い基礎的な素養を身につけると共に、構造、材料、環境・設備等の分野も総合的に考え、建築の計画・デザイン(設計)を実践できる感性と能力を有する人材を育成する。
コース・コア			建築・都市再生デザインコース 都市計画・地域デザインやまちづくり分野、また都市や建物の再生計画、リフォーム、コンバージョンなどを専門とする分野に携わる人材を育成する。
コース・コア			すまいデザインコース すまいに関する知識をもとに、戸建住宅や集合住宅などの様々な用途の住宅の計画と設計やインテリアと家具のデザイン、さらには住居後のメンテナンスとリフォームに関する分野まで幅広く携わる人材を育成する。
コース・コア			環境共生デザインコース 建物の環境・設備に関わる設計・施工、開発、維持管理といったエンジニアリング技術を専門とする分野、さらにそれらの技術と建築設計とを総合的に捉えてデザインする分野に携わる人材を育成する。
デザイン分野			建築計画・デザイン 建築デザインの基礎を学び、建築設計に必要とされる素養を身につけるための領域である。初年次では、人間工学や環境心理学、デザイン理論等の観点から、建築デザインの基礎知識を習得する。次に建築計画学の諸知見を演習を通して学び、空間構成の手法を総合的に身につける。さらに既存建物を有効活用する保存・再生計画に必要な知識や能力を習得する。
デザイン分野			都市 ランドスケープ 都市デザインの内、景観や環境に関する内容を学ぶ領域である。歴史的・風土的侧面を踏まえて、風景計画や造園、ランドスケープをデザインする際に必要とされる諸知識及び方法論と応用力を身につける。 都市・地域 都市デザインの内、経済的、歴史的、物的、法的側面を習得する領域である。過去・現在・未来が連続する都市の空間構造、都市基盤の法的整備手法、都市計画の実務を理解し、都市空間の計画に必要な総合的理 解力を身につける。
デザイン分野			住宅 住まいのデザインに関する基礎知識を身につける領域である。個人と家族と社会の関係、家族における世代や性、少子高齢社会等の問題を理解し、住宅を文化的、地域的、風土的な視点から読み解く力を養う。建築をめぐる経済・法律・環境面の実学的知識を学び、それらを住空間のデザインに活かす応用力を身につける。
デザイン分野			家具・インテリア・テキスタイル グラフィック・照明等 商業施設、オフィス、住宅等のインテリアデザインに関する内容を学ぶ領域である。スケールにとらわれない環境デザインのありかたを学ぶ。また、家具のデザインと製作を通して、ものづくりの基礎である、原寸で考える習慣とデザインのバランスを身につける。
デザイン分野			歴史 建築の歴史について、通史的に学ぶ領域である。日本と西洋における、古代から近代までの時代様式の変遷を理解して、建築デザインを学ぶ上での基礎的教養を身につける。また、近代における建築理論の変遷のアウトラインを理解する。
専門応用科目			構造分野 構造力学 力学を学び、梁やフレーム、トラス構造物の応力や変形の計算方法を知る。構造設計の理論背景を理解することで、設計コードを適切に捉える素養を身につけると共に、建築物の持つ力の流れと形の関係を理解する素地を作る。
専門応用科目			構造分野 各種構造・計画 代表的な構造の特徴を理解した上で、設計方法や接合部などの詳細までを学び、実験から実験動を観察し、理論との整合性を確認する。また、建築物の構造形式の分類と適用事例を知り、適切な構造形式を選択できる能力を養う。
専門応用科目			構造分野 耐震・振動・応用 我が国で必須となる耐震設計の体系を大まかな考え方からスタートし、建物振動の数学的取り扱い、コンピュータを用いた解析手法、地盤の影響などを学ぶことを通して理解する。現在の構造・耐震設計方法を読み解き、新たな設計試みへの展開能力を身につける。
専門応用科目			構造分野 構造設計 鉄骨構造、RC構造を対象に実務設計時の行程を、演習を通して理解し、構造設計業務を適切に履行できる能力を身につける。
専門応用科目			材料・施工分野 材料 建築生産・材料基礎では、建築生産分野への導入教育として建築材料および施工をなぜ学ぶ必要あるのかなど、今後の学習の動機づけを行う。建築材料関係の3科目では構造材料と仕上げ材料についてそれぞれの種類、製造法、特徴、使用方法の注意点などを理解し、建築技術者として仕事をしていく上での基礎力を身につける。
専門応用科目			材料・施工分野 構法 建築構法では、建物の構造原理や特徴、基本部材構成など、建築物を設計し施工するうえでの基礎となる知識を身につける。構法Ⅰでは、主に構造の基礎知識習得を目指しており、木造、鉄筋コンクリート造、鉄骨造、その他構造を扱う。構法Ⅱでは、床、壁、屋根、天井、階段などがどのように構成されているかを理解する。
専門応用科目			材料・施工分野 施工 設計図書どおりの建物を安全かつ効率的に実現していく方法を施工学により理解する。地盤、基礎、躯体、仕上げ別に基本的な施工順序、施工方法、施工上の注意点などを学ぶほか、最先端の施工技術についても理解する。施工演習は以上の基礎知識をもとに、現場管理者に不可欠な施工図作成や積算の方法を実習により身につける。
専門応用科目			材料・施工分野 維持管理 建築病理学では建物に生ずる劣化の診断方法や補修方法を体系的に学ぶ。また、ファシリティ・マネジメントでは、建築物の用途変更、最適再配分の基本的な考え方について学び、公共施設を中心とした建物の管理方法を身に着ける。以上を通して、建築物を長く使うことの重要性について理解する。
専門応用科目			環境・設備分野 環境・設備要素 建築・都市の生活空間を計画する上で必要となる熱・空気・光・音・水等の環境要素を安全かつ快適な状態に保つために必要となる建築・都市環境工学の基礎を学ぶ。それと共に、機械的な環境調整技術となる空調設備、給排水衛生設備、建築電気設備の概要とそれらの設計・計画を行うための基礎知識を身につける。
専門応用科目			環境・設備分野 環境計画・デザイン 建築・環境学における環境工学と設備分野に関する基礎的事項を理解した上で、省エネルギー、省資源で地球環境に配慮した建築・設備の設計・計画を行ったために必要となる計画手法を学ぶ。また、建物のライフサイクル、維持保全、コストの低減を考慮した建築環境・設備の改修や更新について、基礎能力を養う。
専門応用科目			環境・設備分野 システム演習・実験 建築環境工学、給排水衛生設備、空気調和設備、電気設備を主体とした建築設備の実験を体験し、実践的な能力を習得する。同時に環境・設備設計演習を行い、計算法や図面化するための手法を習得する。また、コンピュータを用いた建築・環境シミュレーション手法を学び、解析手法を併用した環境・設備設計手法の基礎力を養う。
専門応用科目			環境・設備分野 省エネ・リサイクル 建築・都市にわたる既存のガス・電気などのエネルギー技術に加え、太陽光、風力、地熱などの未利用エネルギー技術の安全性や実用性等について学ぶ。また、廃棄物等の資源のリサイクル手法とその有効性や課題点について学習し、環境負荷を低減した持続可能な循環型社会の構築のために必要な総合的な能力を養う。
専門応用科目			卒業研究 建築・環境学の総合的かつ全体的な学術体系を基盤とし、デザインとエンジニアリングの統合、環境との共生、既存の社会資源の維持・活用・再生、そして人々の持続する生活の質の向上など、現在の共生社会が必要とする諸課題を追求し、それに応える課題解決能力を身につける。

		1・2セメスター				3・4セメスター				5・6セメスター				7・8セメスター				
		科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	
専門基幹科目	理工学概論	2																
ワークショップ	ドローリング ワークショップ	2.4.12	モデリング ワークショップ	2.4.12	ビルディング ・ワークショップ	2.3.4 11.12	ランドスケープ デザイン・ ワークショップ	2.3.4 8.10										
CAD	CAD演習 I	2.4.12	CAD演習 I	2.4.12	CAD演習 II	2.4.12	CAD演習 II	2.4.12										
数学・法規・測量	基礎数学 I	2.12	基礎数学 II	2.12	基礎数学 III	2.12			建築法規B	2.3.7 12	建築法規A	2.3.7 12						
	文系のための 建築数学・物理	2.12									測量学及び実習	2.11 12						
建築設計製図	建築設計製図 I	2.4.7 8.12	建築設計製図 II	2.4.7 8.12	建築設計製図 III	2.4.7 8.12	建築設計製図 IV	2.4.7 8.12										
建築 エンジニアリング コース	建築構造 サブコース																	
	建築 材料・施工 サブコース								建築構法設計製図	2.4.7	建築構造設計製図	2.4.7						
建築デザイン コース									ハウシング デザインスタジオ	1.2.3 4.6.7 8	地域施設 デザインスタジオ	1.2.3 4.6.7 8	建築・都市 デザインスタジオ	2.3.4 7.8				
建築・都市再生デザイン コース									建築再生 デザインスタジオ	1.2.3 4.7.8	都市再生 デザインスタジオ	1.2.3 4.7.8						
すまいデザイン コース									住宅ケース スタディ演習	1.2.4 6.7.8 10	住宅インテリア デザインスタジオ	1.2.4 6.7.8	住宅設計スタジオ	1.2.4 6.7.8	すまい デザインスタジオ	1.2.4 7.8		
環境共生デザイン コース									パッシブ デザインスタジオ	2.4.7 8	建築環境 デザインスタジオ	2.4.7 8						
建築計画・デザイン	建築計画・ デザイン基礎	1.2		建築計画 I	1.2.4 6.7	建築計画 II	1.2.7	建築再生計画論	1.2.4 7									
都市	ランドスケープ			サウンドスケープ デザイン	1	ランドスケープ論	2											
	都市・地域					まちづくり論	6.9.11 12	不動産学基礎	2.7	アーバンデザイン	2.4.7 10	都市・地域計画論	2.3.7 9.10					
住宅						家族論	1.2.6 9	すまいデザイン論	2.4.9	住居史	1.2.4 6.9							
家具・インテリア・テキスタイル グラフィック・照明等								インテリアデザイン	2.4.6 9	ファニチャーデザイン	2.4.6 9	環境デザイン概論A		環境デザイン概論B				
歴史				日本建築史	2.6	西洋建築史	2.6	近代建築史	2.6	建築理論史	2.6							
構造力学			フレームの力学基礎	2.7	フレームの力学 I	2.7	フレームの力学 II	2.7	フレームの力学 III	2.7								
					静定フレーム演習	2.4.7	不静定フレーム演習	2.4.7										
各種構造・計画								建築構造計画	2.3.7	鉄骨構造	2.4.7	建築構造実験	2.4.7 8.11					
耐震・振動・応用								建築耐震工学概論	3.7	鉄筋コンクリート構造	2.4.7				木質構造	2.4.7		
構造設計									建築振動学	2.4.7	構造解析学	2.4.7	基礎・地盤力学	2.7				
材料			建築生産・材料基礎	2.7	建築材料学 I	2.7	建築材料実験	2.4.7 8.11			インテリア材料・施工	2.7	地震工学概論	3.7				
構法					建築構法 I	2.7	建築構法 II	2.4.7										
施工								建築施工学 I	2.7	建築施工学 II	2.4.7	施工演習	2.4.7					
維持管理										建築病理学	2.7							
環境・設備要素			建築環境・設備基礎	1.2.12	建築熱環境	2.12	建築水環境	2.12	電気設備論	2.12	建築・地球環境論	2.12	建築環境・設備応用	2.4.12				
環境計画・デザイン					建築光・音環境	2.12	建築空気環境	2.12	都市環境	2.12								
システム演習・実験								建築設備計画	2.4.12	環境設備リニューアル	2.12	環境設備維持保全	2.12					
省エネ・リサイクル								パッシブデザイン	2.12									
卒業研究								建築環境・設備実験	2.4.11 12	建築設備・設計演習	2.4.12				建築環境エネルギー	2.12		
								環境シミュレーション	2.4.12						資源リサイクル	2.12		
															ゼミナール/ 卒業研究	1.2.4 7.8.10 11.12	卒業研究/ ゼミナール	1.2.4 7.8.10 11.12

必修科目

コース必修科目

備考: ディプロマ・ポリシー (DP) については以下に対応する番号とその内容を記す。

知識・理解	1.自己理解と他者理解につながる幅広い教養(※)を身につけている。(幅広い教養)(※)総合大学の利点を活かした全学共通教養教育と学部独自の教養教育が含まれる。 2.建築の意匠、歴史、構造、材料、環境・設備に関する基礎的知識を理解している。建築物を設計する知識に基づいて、図面を描くことができる。(専門分野に関する知識・理解) 3.建築・環境学の観点から、「神奈川」の歴史・文化・風土等の特性を理解している。(地域に関する知識・理解)
技能	4.建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを自ら実行する技術を持つ。(問題発見・解決力) 5.国際社会において協働できるコミュニケーション力を有している。(国際協動力)
思考・判断・表現	6.他者がもつ社会的・文化的背景を理解したうえで、自己を客体化して思考することができる。(多文化での共生) 7.倫理観と公平・公正の精神を持った事象の判断力を有するとともに、建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを理解している。(倫理観、公平・公正な判断) 8.他の者の意見に耳を傾けるとともに、自らの意見を適切な表現手段を用いて発信する能力を身につけるとともに、建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを理解している。(傾聴と発信)
関心・意欲・態度	9.生涯にわたり、進んで知識・教養・技能を高めようとする意欲を持って、社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。(生涯学び続ける意欲) 10.社会・地域・組織の一員としての役割を果たそうとする主体性を身につけ、社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。(社会参加への主体性) 11.建築物の設計プロセスにおいて、豊富な知識と広い視野のもとに、様々な背景をもった他者を尊重して協働できる。(チームワーク、他者との協働) 12.問題に対して誠実に向き合おうとする実践的態度を身につけている。社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。(建学の精神の実践、奉仕動機)

建築・環境学部 共通科目 カリキュラムマップ

2017~2022年度入学生用

○印: 必修 △印: 選択必修 ※印: 登録必須 無印: 選択

分野	1・2セメスター	3・4セメスター	5・6セメスター	7・8セメスター	DP対応番号			
教養科目	○キリスト教学 文学Ⅰ 哲学Ⅰ 歴史学Ⅰ 論理学Ⅰ 文化人類学Ⅰ [日本事情（人文）]	○キリスト教学（技術者としての倫理） 文学Ⅱ 哲学Ⅱ 歴史学Ⅱ 論理学Ⅱ 文化人類学Ⅱ 自校史			1, 6, 7, 12 1, (6), 7 1, 7 1, 6 1, 5, 6 1,3,6,7,9,10,12			
	経済学Ⅰ 社会学 法学 憲法 政治学Ⅰ 心理学Ⅰ [日本事情（社会）]	経済学Ⅱ 社会福祉論 (法学) (憲法) 政治学Ⅱ 心理学Ⅱ			1, 7 1, 5, 6			
	教養セミナ	(教養セミナ) Japanese Culture and Society I Japanese Culture and Society II (ソーシャルサービス)			1, 6, 7, (12) 1, 5, 6			
	ソーシャルサービス ※KGUキャリアデザイン入門Ⅰ ※KGUキャリアデザイン入門Ⅱ [日本事情（自然）] KGUデータサイエンス概論	KGUキャリアデザイン基礎Ⅰ	KGUキャリアデザイン基礎Ⅱ	KGUキャリアデザイン応用	4, 6, 10, 12 1, 7, 10, 11, 12 1, 5, 6 1,4,7,8,12			
	△KGUかながわ学（行政） △KGUかながわ学（経済） △KGUかながわ学（スポーツ） △KGUかながわ学（自然） △KGUかながわ学（地域安全） △KGUかながわ学（コミュニティ）	△かながわ学（IT産業） △かながわ学（環境） △KGUかながわ学（政治） △KGUかながわ学（歴史・文化） △KGUかながわ学（健康） △KGUかながわ学（地域づくり）	地域創生特論（横浜） 地域創生特論（川崎） 地域創生特論（鎌倉） 地域創生特論（逗子） 地域創生特論（葉山） 地域創生特論（岩手） 地域創生特論（厚木）	地域創生特論（神奈川） 地域創生特論（相模原） 地域創生特論（横須賀） 地域創生特論（三浦） 地域創生特論（茅ヶ崎） 地域創生特論（小田原） 地域創生特論（福島） 地域創生特論（沖縄）	1, 3, 7			
	保健体育科目	健康スポーツⅠ	健康スポーツⅡ	健康スポーツⅢ	健康スポーツⅣ	健康スポーツⅤ 武道指導論Ⅰ	健康スポーツⅥ 武道指導論Ⅱ	1, 9, 11
	英語	○総合英語（リーディング） ○総合英語（オーラルコミュニケーション） (○総合英語（ライティング）) △英語講読（科学・基礎） △英語講読（科学） △資格英語（TOEIC基礎） △資格英語（TOEIC中級） △資格英語（技術英検） △英語講読（論文） △留学英語 △オーラルコミュニケーションⅠ	○総合英語（リスニング） (○総合英語（オーラルコミュニケーション）) ○総合英語（ライティング） (△英語講読（科学・基礎）) (△英語講読（科学）) △英語講読（文学） (△資格英語（TOEIC基礎）) (△資格英語（TOEIC中級）) (△資格英語（技術英検）) (△英語講読（論文）) △アカデミックフレゼンテーションⅠ △アカデミックフレゼンテーションⅡ △オーラルコミュニケーションⅡ					1, 5, 6
	外国語科目	△ドイツ語ⅠA（文法） (△ドイツ語ⅠB（文法）) △ドイツ語ⅡA（読解） (△ドイツ語ⅡB（読解）) △フランス語ⅠA △中国語ⅠA (△中国語ⅠB) △スペイン語ⅠA △ロシア語ⅠA △日本語ⅠA △日本語ⅡA 海外語学演習（英語） 海外語学演習（中国語） 海外語学演習（韓国語） 海外語学演習（フランス語） 海外語学演習（ドイツ語）	(△ドイツ語ⅠA（文法）) △ドイツ語ⅠB（文法） (△ドイツ語ⅡA（読解）) △ドイツ語ⅡB（読解） △フランス語ⅠB (△中国語ⅠA) △中国語ⅠB △スペイン語ⅠB △ロシア語ⅠB △日本語ⅠB △日本語ⅡB	ドイツ語ⅢA △フランス語ⅡA △中国語ⅡA (△中国語ⅡB) △スペイン語ⅡA △ロシア語ⅡA	ドイツ語ⅢB △フランス語ⅡB (△中国語ⅡA) △中国語ⅡB △スペイン語ⅡB △ロシア語ⅡB			1, 5, 6
	その他の外国語							1, 5, 6, 9, 10

各科目の配当セメスターについては授業科目配当表を参照すること。

備考: ディプロマ・ポリシー(DP)については以下に対応する番号とその内容を記す。

知識 ・理解	1. 自己理解と他者理解につながる幅広い教養（※）を身につけている。（幅広い教養）（※）総合大学の利点を活かした全学共通教養教育と学部独自の教養教育が含まれる。 2. 建築の意匠、歴史、構造、材料、環境・設備に関する基礎的知識を理解している。建築物を設計する知識に基づいて、図面を描くことができる。（専門分野に関する知識・理解） 3. 建築・環境学の観点から、「神奈川」の歴史・文化・風土等の特性を理解している。（地域に関する知識・理解）
技能	4. 建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを自ら実行する技術を持つ。（問題発見・解決力） 5. 國際社会において協働できるコミュニケーション力を有している。（國際協動力）
思考 ・判断 ・表現	6. 他者がもつ社会的・文化的背景を理解したうえで、自己を客体化して思考することができる。（多文化での共生） 7. 倫理観と公平・公正の精神を持った事象の判断力を有するとともに、建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを理解している。（倫理観、公平・公正な判断） 8. 他者の意見に耳を傾けるとともに、自らの意見を適切な表現手段を用いて発信する能力を身につけるとともに、建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを理解している。（傾聴と発信）
関心 ・意欲 ・態度	9. 生涯にわたり、進んで知識・教養・技能を高めようとする意欲を持って、社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。（生涯学び続ける意欲） 10. 社会・地域・組織の一員としての役割を果たそうとする主体性を身につけ、社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。（社会参加への主体性） 11. 建築物の設計プロセスにおいて、豊富な知識と広い視野のもとに、様々な背景をもった他者を尊重して協働できる。（チームワーク、他者との協働） 12. 問題に対して誠実に向き合おうとする実践的態度を身につけている。社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。（建学の精神の実践、奉仕動機）

建築・環境学部 建築・環境学科 学びの流れ/カリキュラムマップ(2020年度までの入学生用)

2021年2月9日改訂版

カリキュラム・ポリシー (概要)

建築・環境学は狭い意味での工学技術の一分野ではなく、ひとつ全体性を備えた総合的な学問領域であり、その多面性から本学部・学科は5つのコースを設けているが、教育課程として1つの「学びの流れ」がコース共通に流れる特徴ある編成としています。

この流れは1・2年次の建築設計製図、3・4年次から分かれるコース毎のスタジオ(卒業研究を含む)により構成され、学部共通に1年次より用意された共通科目及び専門科目の個別的科目群を総合化する場として位置付けられています。ここでは学生第一と考え、学生一人ひとりの多様な資質や能力に肌理細やかに対応する少人数制指導により、設計を中心とした実践的な学修を行います。

[共通科目] 建学の精神、多文化理解につながる教養、興味・関心のある事柄について幅広く学び、「総合英語」を中心とした語学を通して、コミュニケーション能力を身につける。

[専門基幹科目] 数学、物理等の基礎を理解し、活用方法を学ぶ

〈個別専門学修の場〉

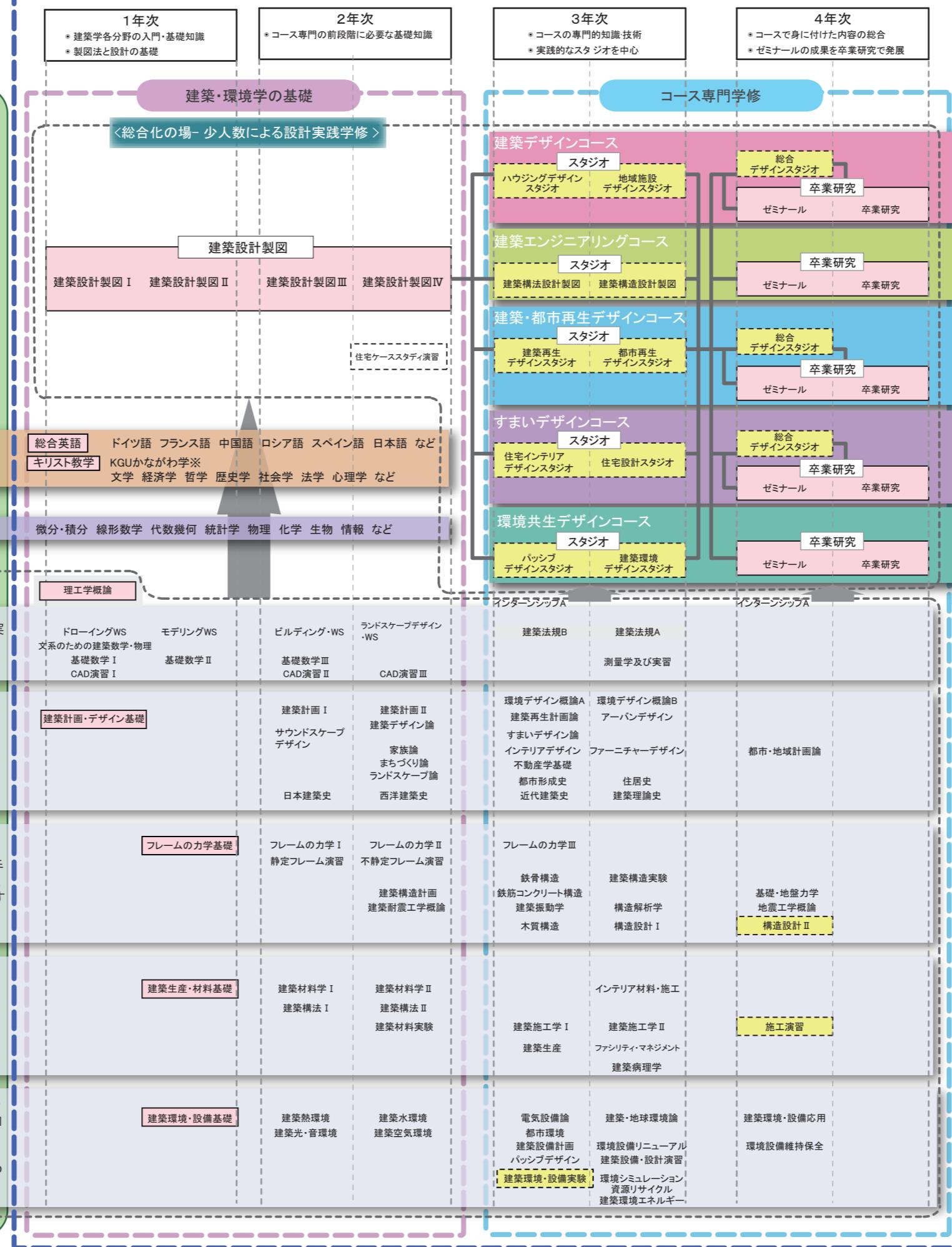
[コモン] 図の表現、基礎的数学・物理、CADの利用方法、法規、実労働の体験を通じて、建築・環境学を学ぶための素地と実践力を学ぶ

[デザイン分野] 計画・設計に必要な幅広い素養を身につけ、デザイン、構造、材料・施工、環境・設備の4分野を総合的・統合的にとらえる能力を培う。
社会、地域や建物を実感すること、体験することを通じ、自身でそれらを分析し、望ましい建築空間として提案する力を育む。

[構造分野] 建築物の構造、材料に関わる知識を得るために科目群により、各種構造材料に対する構造計画、構造設計手法、耐震補強の手法を理解した上で、耐震性、長寿命化などを十分に反映した安心・安全な建物の設計、提案する能力を育む。

[材料・施工分野] 建築物の材料・施工、維持管理に関する知識を得るために科目群により、維持管理計画、材料・施工計画を理解した上で、長寿命化などを十分に反映した安心・安全な建物の設計、提案する能力を育む。

[環境・設備分野] 建築に関連する環境要素には、熱・光・空気・水・音などがあり、これらを調整して快適かつ環境負荷を抑えた建築・設備技術について学ぶ。また、その技術を応用し、人々が安全で快適な生活が営める建築空間を創造できる幅広い環境共生デザイン能力を身につけていく。



コース毎のディプロマポリシー

コースDP1

建築に対する幅広い基礎的な素養を身につけると共に、構造、材料、環境・設備等の分野も総合的に考え、建築の計画・デザイン(設計)を実践できる感性と能力を有すること。

コースDP2

建築構造や材料・施工に関わる設計・施工、開発、維持管理といったエンジニアリング技術を専門とする知識と実践力を身につける。

コースDP3

都市計画・地域デザインやまちづくり分野、また都市や建物の再生計画、リフォーム、コンバージョンなどを専門とする知識と実践力を身につける。

コースDP4

すまいに関する知識をもとに、戸建住宅や集合住宅などの様々な用途の住宅の計画と設計やインテリアと家具のデザイン、さらには住居後のメンテナンスとリフォームに関する分野まで幅広く携わることができる感性と実践力を身につける。

コースDP5

建物の環境・設備に関わる設計・施工、開発、維持管理といったエンジニアリング技術を専門とする分野、さらにそれらの技術と建築設計とを総合的に捉えてデザインする分野に携わることができる知識と実践力を身につける。

建築・環境学部ディプロマポリシー (概要)

建築・環境学の総合的かつ全体的な学術体系を基盤とし、デザインとエンジニアリングの統合、環境との共生、既存の社会資源の維持・活用・再生、そして人々の持続する生活の質の向上など、現在の共生社会が必要とする諸課題を追究し、それに応えることができる人材を育成するために用意された諸科目の修得を求めます。

具体的には、

- ・建築の意匠、歴史、構造、材料、環境・設備に関する基礎的知識を理解している
- ・建築物を設計する知識に基づいて、図面を描くことができる
- ・建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを理解している
- ・上記コース毎にDP(diploma policy)を身につけている

